

研究計画書

<b>ゼミ名</b>	青木ゼミ II	<b>チーム名</b>	ITMS
<b>タイトル</b>	バーチャル・ウォーターの国際経済学		
<b>テーマ群</b>	a)理論・情報      d)国際経済		
<b>メンバー</b>			
<b>研究計画内容</b>	<p>この研究テーマでは、「世界の水資源の過不足」を経済学の視点から捉えなおし、世界の水不足問題と仮想水の役割、そして仮想水で解決できることとできないことを調査・分析し、あわせて日本の役割について考えます。</p> <p>具体的には、「気候変動と水資源のグローバル不均衡」、「日本の水資源と仮想水」、「仮想水の国際取引の実像」などを考察する予定です。</p> <p>気候変動（地球温暖化）の核心的問題が、気候変動によるグローバル・レベルでの水の不均衡を深刻化させることにあることを明らかにし、FAO（国連食糧農業機関）のレポートなどを参考に、水需給のグローバル・マップ（水不足が深刻な地域、過剰が深刻化している地域の世界地図）を作成し、気候変動の影響を「水の過不足と飢餓」という視点から調査します。日本は水資源が比較的豊富とされてきたが意外にも世界有数の水輸入国です。日本には河川も山も多く四季があり降水量も他国に比べて多いという一般のイメージとは異なり、なぜ日本が世界有数の水輸入国になってしまっているのか、また日本の実態はどうなっているのかを調査します。世界的な人口増加や地球温暖化の進行に伴って世界の水不足が叫ばれている今、原油や鉱物資源などと異なり、枯渇する資源ではない水資源が隠れた水の国際貿易として時間的・空間的過不足をならす働きを持つ仮想水（Virtual Water）。その仮想水が水資源を使って生産された食料品等の貿易として働いている実態を調査します。地域・時間的な偏在性が強く、水の重量当たりの価格が安く、直接輸送・貿易の対象なりにくいという性質を持つ水が仮想水として国際取引されている実像について調べます。これらを踏まえて、仮想水（Virtual Water）が世界の水不足問題においてどのような役割を果たしているのか、経済学の視点からまとめる予定です。</p>		